

Contents ▶

- 1 新体制の発足に当たって 2 桜美林大学にとってのIRとは 3 MOOCの衝撃とFD・SDの必要性 4 編集後記
5 センター構成員一覧

1 新体制の発足に当たって

大学教育開発センター長

心理・教育学系教授(大学アドミニストレーション研究科) 山本 眞一

このたび、小池一夫前センター長の後を承けてセンター長に就任いたしました。今後2年間にわたり、本学の教育改善・改革のための知恵袋として微力を尽くしてまいりたいと考えておりますので、どうかよろしくお願い申し上げます。

当センターは、①大学院を含め本学の授業の内容および方法の改善のための組織的な研修および研究を支援・推進すること、②本学の教育研究活動の状況を明らかにして、広く国内外の理解と支持を得るための諸施策を支援・推進すること、を目的として2008年度に設置されました。その後、2012年度に大幅な改組を経て、現在のような体制になりましたが、この間、授業改善に関することや職員の能力開発のあり方などさまざまなテーマによる研修会を行い、また本学の現状や課題を明らかにするためにFact Bookなどの各種の刊行物を作成してきました。近年よく耳にする大学改革に関するキーワードでいえば、FD(教員の能力開発)、SD(職員の能力開発)、IR(Institutional Research: 教学経営のための情報・データ分析)の三つの活動を通じて、本学の教育改善・改革に寄与するよう努めてきたのです。

ご案内の通り、わが国の大学を巡る諸環境は、グローバル化、知識基盤社会化、18歳人口の減少などの中で厳しさを増しています。社会の変化そして学生の新しいニーズに合った教育を提供することはもとより、私学の定員割れが4割にも及ぶ昨今、十分な志願者を集めて教育を行うことは、大学経営の安定のみならず、教育を通じた大学の社会貢献をしっかりと果たすためにも必要不可欠なことです。それには、教育内容・方法の抜本的改善・改革、入学、学修そして就職までに渡るきめ細かな学生支援・サービスの充実、教職員の能力開発の推進など、さまざまな側面での改革を各大学が行う必要があります。本学についても決して例外ではありません。

私どもセンターの構成員は、以上のような情勢をしっかりと踏まえつつ、本学のすべての皆様とともに、教育改善・改革のためのさまざまな課題に取り組むべく努力をいたしますので、これまでと同様、幅広いご支援をいただきますよう、心よりお願い申し上げます。



2 桜美林大学にとってのIRとは

教職センター教授

大学教育開発センター情報評価・分析(IR)部門主任 田中 暁龍

大学におけるIR(Institutional Research)の役割は、①学内の様々なデータの収集・蓄積、②教育や研究にかかわる調査・分析、③大学経営の改善・改革に役立てるための基礎となる情報・分析の提供、などとされている。近年では、「○○に強い大学」などを冠した『大学の實力』や『大学ランキング』等の書籍・雑誌が流行し、「入試」「就職」に始まり「教育力」「職員力」に至るまで、実に多くの観点から情報が掲載されている。

諸大学の情報にはどうしても競争的意味が付加されるが、本学の「魅力」や「強み」とは何かということを変更して考えることは重要である。前IR部門の方々の活動を引継ぎ、すでに『桜美林大学Fact Book』が2008～2013年度の6か年にわたって発刊されている。正直なところ、内容や構成についてはまだまだ、議論すべき箇所を抱えているところではあるが、一つ念頭においておきたいことは、本学の「魅力」や「強み」に思いを馳せ、「桜美林大学にとってのIRとは」という課題に取り組むということである。

昨2013年度からは、『桜美林大学Fact Book』の発行を年内に切り替え、その分少しでも集積したデータの分析に時間を割こうと努力を重ねてきた。まだその取組みも緒に就いたばかりだが、学内の様々な部署と連携をとりつつ「桜美林大学にとってのIRとは」という課題について継続的に検討し、一步一步前進していきたいと考えている。本学の現状と課題について情報を共有し、活発な議論ができるよう、皆様からのご助言を賜ることができれば幸いである。

3 MOOCの衝撃とFD・SDの必要性

大学教育開発センター FD・SD部門主任
心理・教育学系教授 鈴木 克夫

山本眞一前センター次長兼FD・SD部門主任のセンター長就任に伴い、今年度より同部門主任を仰せつかりました。2008年のセンター設置以来6年間にわたりIR部門で主にFact Bookの制作に携わらせていただきましたが、このFD・SD部門では、主に本学の教員の能力開発（FD）ならびに職員の能力開発（SD）、具体的には、各種研修会やシンポジウムの企画・運営を担当させていただきます。

私の関心分野であるICT活用教育の世界でも、2012年に米国で始まったMOOC（大規模公開オンライン講座）が2013年には日本でも注目を集め、教室での講義と自宅での宿題を逆転させた反転授業（学習）、それに伴う講義者（レクチャー）から促進者（ファシリテーター）への教員の役割の変化、さらには講義を提供する（できる）機関と利用するだけの機関への大学の二分化など、これまでの大学教育を大きく変える可能性が指摘されています。もちろん、こうした変化をそのまま肯定するわけではありませんが、大学の教職員は、自らの大学が今後どのような教育を展開していくべきか、その方向性を考えなければならない時期に来ているといえるのではないのでしょうか。

微力ながら、研究員の力を結集し、学内の教育組織ならびに事務組織との連携を密にすることで、その課題をすくい上げることに努めたいと思います。

4 編集後記

今年度から研究員の増員・入替が行われ、下記の方々が当センターの活動に参画されることとなりました。またニューズレターもしばらくお休みしておりましたが、今後は定期的に発行いたす所存ですのでよろしくお祈りします。（鳥居 聖）

5 センター構成員一覧

センター長	山本 眞一	(心理・教育学系 大学アドミニストレーション研究科)
センター次長	(空席)	
FD・SD部門主任	鈴木 克夫	(心理・教育学系 大学アドミニストレーション研究科)
研 究 員	中島 吉弘	(人文学系 リベラルアーツ学群)
同	阿部 温子	(法学・政治学系、リベラルアーツ学群)
同	石渡 尊子	(心理・教育学系 健康福祉学群)
同	下島 康史	(経済・経営学系 ビジネスマネジメント学群)
同	小林 幸枝	(人事課)
同	松ノ下昭人	(教育支援課)
IR部門主任	田中 暁龍	(人文学系 教職センター)
研 究 員	藤田 晃	(経済・経営学系 ビジネスマネジメント学群)
同	有賀 清一	(総合科学系 ビジネスマネジメント学群)
同	井上 久	(経理課)
同	桑川 二郎	(情報システムセンター)
同	増田 優太	(学生生活支援課)
同	和久田史佳	(入試広報センター)
事務総括	鳥居 聖	(事務部長・研究員兼任)

編集発行：桜美林大学 大学教育開発センター

〒194-0294 東京都町田市常盤町 3758 桜美林大学 其中館1階 101 TEL.042-797-6724 (内3250) FAX.042-797-6398

E-mail : fdcenter@obirin.ac.jp Web : <http://www.obirin.ac.jp/ri/fdcenter/>